

# 岐阜ってすごい!

国土交通省 中部地方整備局 岐阜国道事務所

調査課長 天野 繁

## 1. はじめに

平成17年4月に中部地方整備局岐阜国道事務所へ赴任して1年が過ぎました。この度、大変貴重な誌面を頂きましたので、現在私がお世話になっている岐阜県と岐阜国道事務所の紹介をさせていただきます。

## 2. 岐阜県の概要

岐阜県は、日本の真ん中に位置し、全国7位の1万600km<sup>2</sup>の広い県土を有し、7つの県に囲まれた数少ない海のない内陸県です（「日本の真ん中」について、日本の人口重心は岐阜県内にあると言われていています。ただ、長野県や愛知県、静岡県等も「我が県こそ真ん中だ」と言っています）。平成2年には99あった市町村数は合併特例法によって42になり、北海道の足寄町を抜き、全国の市区町村の中で最も大きな面積を持つ高山市も誕生しました。

岐阜は、北部飛騨地域に御嶽山・乗鞍岳などの



白川郷合掌造り



長良川の鶺鴒の様子

標高3000mを超える山々が連なり、南部美濃地域には濃尾平野が広がるなか、木曾川、長良川、揖斐川の本曾三川が流れており、その変化に富んだ美しい自然は、古くから「飛騨の山、美濃の水」という意味で「飛山濃水」と呼ばれてきました。海拔0mの平地から標高3000m級の山脈まで存在し、標高差が激しい県土は、夏は40度近く気温が上昇するも、冬は降雪があり雪寒地域にも指定されるなど、気象状況も変化に富んでいます。

このような地域の自然条件を活かして、さまざまな農産物の生産が行われています。南西部の平地では、暖かい気候を活かした稲作、中濃、東濃、飛騨地域の山間地では、涼しい気候を生かした野菜の栽培、そして、山地を利用して、飛騨牛でも有名な肉用牛や、乳用牛の飼育も行われています。また、海のない岐阜県においては、長良川の鶺鴒いでも有名な鮎漁を中心とした河川での漁業や、にじます、あまごなどの養殖漁業が中心になっています。

一方、岐阜は古くからのものづくりが盛んで、岐阜市を中心としたアパレル産業、関市の刃物、伝統的な工芸品である美濃焼や岐阜提灯、一位一刀彫など、製造業は岐阜の中心的な産業です。

さらに、世界遺産に登録されている白川の合掌造りや、高山、旧古川町の古い町並み、美濃の「うだつの上がる町並み」など昔のたたずまいを残した町が数多くあり、また、日本三大美祭の一つとして知られる高山祭り、有数の温泉地である下呂温泉など、観光資源も豊富であり、戦国時代の末期に活躍した織田信長や豊臣秀吉、徳川家康をはじめ、最近ではNHK大河ドラマ「功名が辻」の主人公である山内一豊と千代のゆかりの地として注目され、多くの観光客が訪れています。

このような自然・環境・食・伝統・文化・歴史に富んだ岐阜県を、地元のみなさんは、誇り、愛着心に溢れています。岐阜で知り合った方々はみなさん「岐阜は住みやすいし住み続けたい」、「岐阜は素晴らしい」とおっしゃいます。こんな話も聞いたことがあります。「〇〇町（岐阜県内）の人たちとは、前に助けてくれなかったからあまり仲が良くないんだ」と。詳しく聞くと、「前に助けてくれなかった」というのは、戦国時代のいくさの最中に援軍や支援物資を送ってくれなかったそうです。改めて、歴史というのは重いものなんだと感じました。

### 3. 交通の要衝・商業の中心として栄えた岐阜

岐阜は、戦国時代には、「美濃を制する者は天下を制する」と言われ、斎藤道三や織田信長の活躍の舞台となり、織田信長のとった「楽市・楽座」も開かれました。その後、江戸時代を築いた徳川



高規格幹線道路網

家康と石田三成が戦った関ヶ原の戦い（岐阜県不破郡関ヶ原町）は「天下分け目の戦い」と呼ばれました。

江戸時代以前は、この地域は日本の内陸側を東西に横断する地方として東山道と呼ばれ、東山道は都のあった畿内（京都、奈良）と国府を結ぶ幹線道路としても整備され、江戸時代には、江戸と京都を結ぶ幹線道路、中山道として整備されました。中山道の宿場であった太田宿や加納宿などは今もそのたたずまいを残しています。

現在は、名神高速道路、中央自動車道、東海北陸自動車道、東海環状自動車道、中部縦貫自動車道の5つの高規格幹線道路や、前身が中山道の国道19号や21号、22号、41号、156号など、東京～名古屋～京都・大阪の東西軸、中部圏～北陸圏の南北軸を結ぶ重要な拠点です。

#### 4. 岐阜国道事務所の概要

空港・港湾のない岐阜は、内陸の広域交通を支え、なおかつ、県土のほとんどを森林が占め、可住地面積はわずか2割（全国45位）の地域交通を支えるための交通基盤が重要となります。交通特性は、自動車交通に大きく依存し（人口当たり自動車保有率全国7位、旅客交通手段別の乗用車分担率約9割）、地形的特性は標高の高い山と大きな河川が存在し制約を大きく受けます。このような交通特性や地域的制約を背景に、岐阜県の主要な課題は大きく3つあります。

- ①広域交通を支え、地域連携、国際競争力強化に資する高規格幹線道網の早期整備
- ②都市部や渡河部、観光地等の交通渋滞対策
- ③降雨時の災害対策や、東南海・南海地震に備えた震災対策

※異常気象時の事前通行規制区間を指定するきっかけとなった飛騨川バス転落事故（昭和43年8月18日：死者104人）は、一般国道41号岐阜県加茂郡白川町で発生。

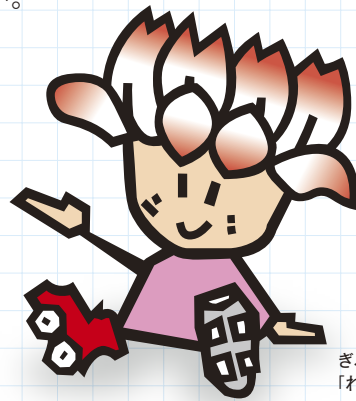
これらの課題を早期に解決するため、岐阜国道事務所では、岐阜市をはじめとする岐阜県中西部地域の一般国道6路線（21・22・41・156・158・258号）の改築・維持修繕・交通安全・道路防災・雪寒等の事業と、高規格幹線道路である一般国道475号東海環状自動車道の整備を担当しています。

東海環状自動車道は、名古屋市中心とする半径30～40km圏に位置する愛知・岐阜・三重の諸都市を環状に連絡し、東名・名神高速道路、中央・東海北陸自動車道や第二東名・第二名神高速道路等と一体となって広域的なネットワークを形成する延長約160kmの高規格幹線道路で、東海地域の骨格として円滑なモビリティを確保し、名古屋都市圏の渋滞緩和や地域連携を支援する重要な環状道路として期待されています。

このうち岐阜国道事務所では、美濃加茂市から岐阜・三重県境までの約75kmを担当しており、美濃加茂市から東海北陸自動車道と連結する美濃関JCTまでの区間については、平成17年3月19日に開通しました。この開通により、中部国際空港や愛知万博のアクセス道路として2大プロジェクトを支えるとともに、岐阜県内においても沿線地

域における工業団地の分譲の進展や観光交流の促進に寄与するなど、様々な波及効果が現れてきています。

ここでは、誌面の関係上紹介できませんでしたが、一般国道のバイパス事業や、防災事業、NPO等との協働による「道づくりフォーラム」、車道や歩道、景観等を含めた道路空間を考える「国道21号道路空間整備ワークショップ：みちみらい21」などの取り組みを行っています。詳しくは、岐阜国道事務所のホームページ「ぎふこくナビ（<http://www.gifukoku.go.jp/>）」を御覧になって下さい。



ぎふこくナビキャラクター  
「れんげちゃん」

#### 5. 終わりに

この稿では、岐阜の地域性に重きを置いて紹介させて頂きました。北海道在勤中は、現在全国的に取り組みが展開されつつある「日本風景街道（シーニックバイウェイジャパン）」の基礎となった「シーニックバイウェイ北海道」のたちあげに携わらせて頂き、その土地・地域で生活する方々、活動を展開する方々と接し、「地域・人を知ること」がいかに重要かを学びました。北海道で6年、岐阜ではまだ1年とそれぞれ短い期間しか生活していないので、その土地に住んでいるみなさんからは「まだまだアオイ」と思われるかもしれませんが、旅行などで「行ったことがある」という人よりはその地域のことを語れますし、誇れると思っています。そして、その地域をもっともっと元気に楽しくするために、ほんの少しの力ですが、“何か”ができればと思っています。また、その地域に一番私自身が支えられていることに心から感謝して、結びとします。